

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2019年10月1日 193号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第19回 国際協力青年奉仕隊特集



プレゼントを前に、第19回国際協力青年奉仕隊員と、プエルト・グアラニの生徒と教師たち。歓迎式にて。2019年8月30日

プエルト・グアラニの町の悲願を実現！

去る八月二十五日、日本を發つた、第一九回国際協力青年奉仕隊は、すべての日程を終えて、九月十三日、元氣よく帰国しました。以下は、今回もまた奉仕隊プロジェクトの準備と実行に奔走した、佐野道准氏による報告の抜粋です。

「今回の青年奉仕隊の活動は、不思議なほどすべて順調だった。予定を変更せざるを得ないような事態は全く起こらなかったし、一人の病人も出なかった。また一つ一つの企画が順調に進行し、しかもとても良いインパクトを残したと思う。」

「企画の一番の目玉は、観光船をチャーターしたこと。船上でのプログラムの中心は、南米で先駆けて歩んできたパウロ兄弟とミヨンスン夫人の体験談。多くの写真を交えた証しはリアルで、若者たちの心に強く焼き付いたと思う。」

「プエルト・グアラニでは、出来るだけ地元の人々の願いに添えてあげたいと考え、盛りだくさんな内容となった。まず学校の金網柵の設置。全長117mの柵をこしらえ、中央に幅4mの門を造った。そして約20mのレンガのブロック塀を造った。更に校舎の壁を修理してペンキを塗った。そして食堂に壁画を描いた。また40個のゴミ箱の設置。これも住民たちの要請だった。二年前にオリンピックでゴミ箱設置のクリーンキャンペーンをしたことを彼らは良く知っているのので、同じ依頼があったのだと思う。中等学校、警察署、診療所、裁判所などの公共機関にそれぞれ複数個のゴミ箱を設置した。」

「九月二日の歓送式には、オリンピックから教育委員会責任者と市会議長が参加し、この町の責任者と共に、私たちへの感謝の意を述べた。司会を担当した校長先生は『学校に塀を完成させることは自分たちの悲願でした。五年前から教育省に陳情し、州政府にも陳情しましたが予算を取ってもらえませんでした。それを南北米福地開発協会が実現してくださり、心より感謝しています。また、また教室の壁が新しく塗装され、教室が蘇り、食堂に立派な壁画を描いてくれ、多くのギフトをもらい、またこの町をきれいにするゴミ箱の設置までしてくれたことに、単なる感謝という言葉では表現できないほど心から感謝しています。』と述べた。そして南北米福地開発協会と青年一人一人に感謝状が贈られた。また多くの父兄が参加して学校は大盛況だった。最後は子供たちの民族舞踊と青年たちのダンス。皆一緒に踊って盛況のうちに終了した。その後、隊員と子供たちが最後の別れを惜しんでいた。一緒に写真を撮ったり、(次面に続く)

第十九回国際協力青年奉仕隊

(一面より続く) 戯れたり、連絡法を交換したり。壁面の前で撮影をする人々もいた。本当はすぐレダに向かつて出港しなければならなかったのだが、青年たちはなかなか乗船しようとしなかった。



学校長からの感謝状を手に佐野氏。9月2日

最後に先生の指示で子供たちが二列に並び、その間を青年たちが通って船に乗り込めるようにした。」

「毎回のことではあるが、言葉の壁があるにもかかわらず、青年と子供たちの間に深い絆が結ばれていく。別れるときはお互いが涙を流している。これは何時か必ず近い将来、世界が一つになれることを示してくれていると思う。」

奉仕隊員の鎌倉有美さんによる活動メモ(抜粋)

【8月26日】現地時間26日の午前零時少し前、奉仕隊メンバーはアスンシオンに無事到着し、佐野先生、中井先生、そしてパラグアイで活動する青年たちに迎えられました。そして空港から市内のホテルへ車で移動。午前二時をまわった頃、各自の部屋で就寝。ドーハ経由の長い、長いフライト、皆さんお疲れ様でした。

【8月27日】ホテルで朝食後、オリエンテーションを受けました。まずは全体で自己紹介。



ロマ・プラタのミルク工場にて。8月28日

雨も少ないため、開拓が困難だと言われていた。その土地を開拓したのが「メノナイト」と呼ばれる信仰者の移民たち。一九二七年から開拓が始まり、90年近く経った現在、この町には大きな工場ができ、雇用も生まれ、四一〇〇人以上の人々が生活しています。この日、青年奉仕隊はロマ・プラタの町についてのプレゼンテーションを受け、歴史博物館や乳製品工場を見学しました。レダへ行



小学生による軽快な民族ダンス。8月30日



グアラニの生徒たち。歓迎式にて、8月30日

午後三時半頃、プエルト・グアラニ到着。歓迎式にて、8月30日



奉仕隊がダンスを披露。歓迎式にて、8月30日

佐野先生からプレゼンテーションがありました。文先生ご夫妻がどれほど南米に投入されて来たのか、先輩方がその中でどのように歩まれていたのか、佐野先生ご自身の体験談も交えながら語られていました。「私たちが成せなかったことは本



ペドロ君と伊藤さんカップル。8月29日



語るパウロさんと坂本氏(左)8月29日

く前に、ロマ・プラタを訪れた理由について、佐野先生は「メノナイトは信仰によって町を作り上げていった。理想郷を実現しようとしたメノナイトは我々の先駆者であり、ロマ・プラタは将来の都市のモデルの一つとも言える町。その開拓精神は、我々にとっても見習うべきものがある。レダへ行く前に、皆さんに案内してあげたかった。」と語られていました。お昼頃からバスで八時間ほどかけて、バジェミ港へ移動。チャーターした観光船に乗船。夜九時ころ出港。六日間の船旅が始まりました。

【8月29日】午前中は、



お互い、慣れない手つきですが。9月1日



校舎の外壁にペンキを塗る。9月1日



学校の食堂に描いた絵の前でにっこり、壁画チームの5名。9月1日

【8月31日】柵の土台を完成させた後、校舎の外壁にペンキを塗って行きました。子供たちも手伝いに来てくれたので、作業がどんどん進んで行きました。この日の夜は、パウロさんご自身の豊富な体験

【8月30日】午前中、グアラニの小学校を訪ねし、Tシャツやノートなどをプレゼント。生徒たちの前で、歌とダンスを披露しました。この日は、学校を囲う柵の土台をレンガとセメントで作るチームと、食堂の壁面に絵を描くチームとに分かれて奉仕活動を行い、作業を一段落させてから、子供たちと外で元気に遊びました。



甘え上手なんだから... 9月1日



大縄跳びなど、全力で遊ぶ。8月30日



新しいお姉さんと新しい妹。9月2日



新しいお兄さんと新しい弟。8月30日

談を聴きました。文先生と共に時間を過ごして行く中で、神様のみ意を知り、祝福を受けたパウロさん。「言葉は通じないけれど、文先生の態度に惹きつけられて、この方について行くしかない!」と思っについて行つた。」と力強く語っていました。

【9月1日】この日は日曜日。小学校のすぐそばにあるカトリック教会の礼拝に参加。礼拝の中で青年たちがパフオーマンス、ペドロさんがギターを弾きました。礼拝後は、昨日に引き続き、校舎の外壁にペンキを塗りました。日が沈む頃に無事塗り終え、その後、子供たちと遅くまで遊びました。

【9月2日】三日間の奉仕活動を終え、グアラニを



船上で語るミョンスンさん。9月2日



仲良く一緒にゴミ箱を持って。9月2日

出発する日。朝、青年奉仕隊メンバーは学校周辺にゴミ箱40個を設置し、子供たちと一緒にゴミ拾いをしました。その後行われた歓送会（閉講式）には、小中学校の生徒をはじめ、教育関係の責任者、地域の方々等、多くの人が集まり、盛大に行われました。

互いに別れを惜しみながらも、グアラニの町を発ち、約二時間半ほどかけてオリンポの町に向かいます。その途中、キム・ミョンスンさん（南米で直接文先生に侍られた方）とご主人のマウリシオ・バルディーニさんが合流。文先生とのエピソードやミョンスンさんご自身の体験談を聴きました。

午後一時頃、オリンポの港に到着。アリスティデスさんに出迎えられます。文先生ご夫妻が実際に生活されていた場を見学し、以前の奉仕隊の足跡を訪ねました。船に戻り、オリンポからパラグアイ川を北上し、レダ基地へと向かいます。途中、ナビレキを目の前にし、全員で祈禱を捧げました。

【9月3日】未明、プエルト・レダに到着。午前7時頃下船、レダに上陸。（続きは本紙次号にて）

*奉仕地のプエルト・グアラニ（Puerto Guarani）は、パラグアイ川右岸の町。オリンポ市の約30 km下流側に位置する。*第19回青年奉仕隊参加者... 日本から男性五名、女性八名、レダから男性二名、アスンシオンより男性四名、パラグアイ人男性一名。

レダ開拓二十年の歩み

モデル村の建設を目指して

- ★インディヘナの村々に校舎建設と教育支援
- ★青年たちに職業訓練と雇用創出
- ★パクー養殖や今後エビ養殖による事業化へ

誰も行きたいと思わない地域に喜びの町を目指して

南米パラグアイのレダを拠点として、パラグアイ政府のご理解のもと、地域社会への支援活動に携わってきました。当会が開拓に着手してより、今年



初期の開拓者たち。酷暑と蚊の猛攻の中で。



1999年のレダ。ヤシの家屋が多かった。



現在のレダのスイミングプール。

二十周年を迎えました。これまで多くの方々のご支援、ご協力等いただき、改めて感謝いたします。一九九九年より、自然豊かな南米の中でも貧困が深刻な地域であった、アルトパラグアイ州のチャコ地域に入植し、この開拓を提唱された文鮮明総裁、韓鶴子総裁のご意思を継いで、二十年間途切れる事無く、過疎地域の清潔で堅牢な学校校舎の建設と教育環境の改善を行うとともに、地域振興のための農業試験場、水

産試験場での研究活動にいらして参りました。様々な活動は年を重ねるたびに、地元の方々のご協力とご理解を得て、パラグアイ共和国大統領、副大統領、閣僚の方々の訪問を受けるまでになりました。そして今後は、新しい産業を育成しつつ脆弱な環境の保全及び多くの植林を通じて、危機にさらされている希少動物の保護に当たるなど、地域全体がより豊かに繁栄し、国家に貢献できるよう、更に新たな次元へと飛躍を目指してまいります。



大統領がパクーの稚魚を放流。



国際協力青年奉仕隊を毎年派遣。

パラグアイ レダ開拓20周年記念式典

令和元年10月14日（体育の日）午後4時～7時

開場：午後3：30

開会：午後4：00

会場：京王プラザホテル

一部：記念式典4F大宴会場『扇』

二部：懇親会 4F中宴会場『花』

会費：式典と懇親会参加（10,000円）

式典のみ参加（3,000円）

懇親会のみ参加（10,000円）

（希望される方は下記事務局あてご連絡ください）

お申込み送信先：E-mail:office@asd-nsa.com

:FAX:044-829-2820

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール:office@asd-nsa.com

ホームページ:https://asd-nsa.com

Facebook:https://www.facebook

.com/ledaproject.jp/

会員種別

◆会員一口1000円／月

◆特別会員一口1万円／月

◆法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



ホタル

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局：office@asd-nsa.comへお願いします。